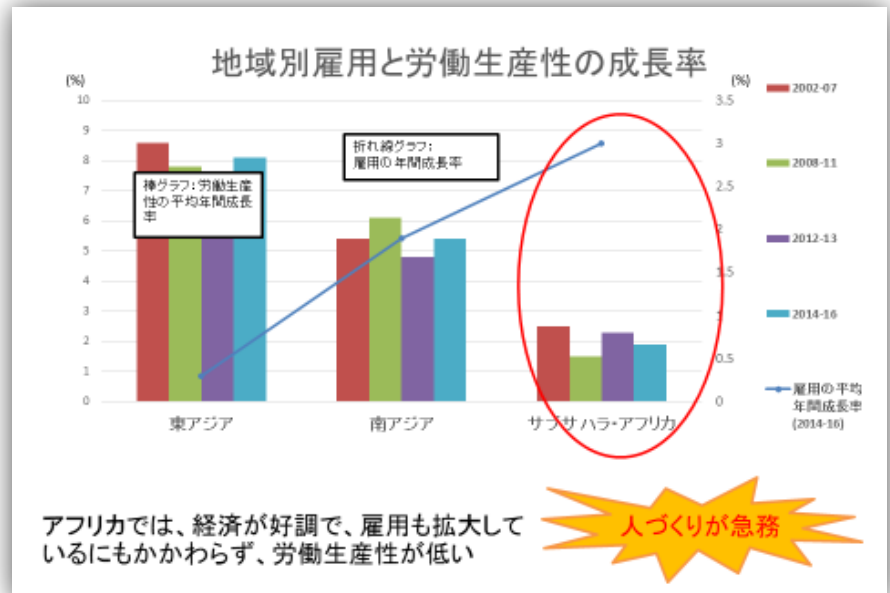


## なぜ今、アフリカの産業人材育成か？

- 2000 年頃から、アフリカの経済成長率は日本を含む先進国を上回っていますが、国民所得の多くは資源の輸出など、付加価値の低い生産です。
- 付加価値の低い仕事を大勢の人が分け合っているため、労働者の生活が安定しません。
- アフリカの労働人口の 4 割が 24 歳以下の若者ですが、その層の失業率が最も高いです。
  - サブサハラアフリカの成人失業率全体は 8.0%に対し、24 歳以下の失業率は 14.1%です (World Development Indicators 2014)。



- ◆ 国の成長の恩恵を皆が分け合うために**技術力**に基づく付加価値製造とすそ野の広い**雇用**が必要です。
- ◆ 限られた政府予算で行う職業技術教育は、効果的に産業人材を育成する必要があります。
- ◆ 2015 年 9 月に国連総会で採択された**持続可能な開発のための目標(SDGs)**や、日本政府が 2016 年 8 月に開催した**第 6 回アフリカ開発会議(TICAD VI)**でも、産業人材育成の重要性が謳われています。
- ◆ アフリカは巨大な市場かつ生産拠点であり、**日本企業からの関心**が高まっています。しかし、政治不安やインフラ不足などの課題とともに、**人材不足**が進出のネックになっています。

## 本プロジェクトの目的:

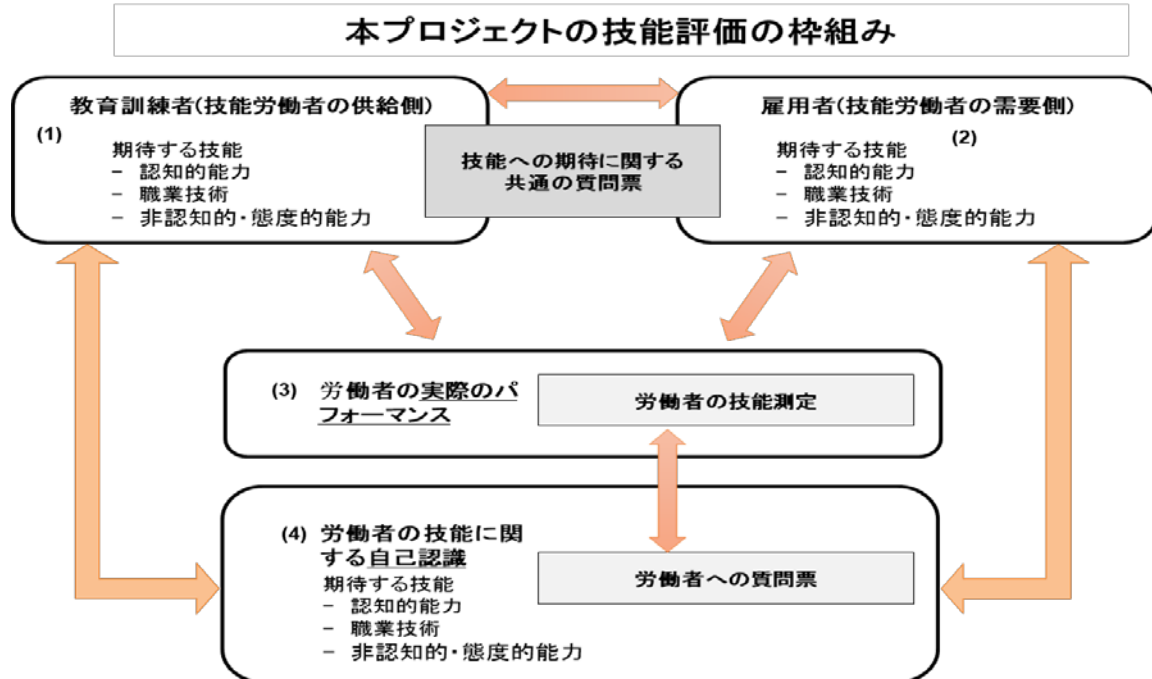
- アフリカの経済成長と貧困削減のため、産業人材の効果的な育成手段を提案する
- 産業界で必要とされる技能を持った人材を、職業技術教育によって提供できているかを具体的に特定する
- 本プロジェクトが開発した技能評価のモジュールを、アフリカの国々の政府やそこでビジネスを行う企業が活用できるものにする

## 本プロジェクトの強み:

1. 本プロジェクトが行う技能評価は、以下の疑問に対する答えを提示します。
  - 産業界と学校側で人材に求めるものに違いがあるのか
  - 実際に労働者が使える技術は期待に合っているのか
  - 学校のカリキュラムは、意図したとおりの技術を持った人材を養成できているのか

2. 本プロジェクトでは、技能を単なる作業技術としてではなく、複合的な問題解決能力として把握します。
- 認知的能力ー 座学で学ぶ基礎的な知識、読解力、計算力
  - 職業技術ー 特定の業種に必要な作業を行う力
  - 非認知的能力ー 求められている結果を出すために知識や技術を当てはめたり、仕事上の対人関係、ルールの順守や判断などを行う力

**国、産業を問わず適用**できるよう、現在、事例国で試行と検証を続けています。



**プロジェクト実施国**

- エチオピアでのパイロットスタディを他の地域にも拡大
- 南アフリカやガーナで同様な研究を実施



私たちのチームでは、様々な学問分野の知見を持ち寄って問題に対処しています。



**チームメンバー**

- 野口裕之(教育測定学;名古屋大学名誉教授)
- 山田肖子(教育開発学、産業人材育成論;名古屋大学教授)
- 佐々木重洋(文化人類学、アフリカ地域研究;名古屋大学教授)
- 高橋基樹(アフリカ経済開発論;京都大学教授)
- クリスチャン・オッチャ(計量経済学;関西学院大学専任講師)
- 出町一恵(計量経済学;東京外国語大学講師)
- 島津侑希(教育開発学、産業人材育成論;名古屋大学特任助教)
- 谷口京子(教育開発学、教育評価;名古屋大学ポスドク研究員)
- シンバムツヴァングワ(労働経済学;名古屋大学ポスドク研究員)
- 三上恵美子(産業人材育成論、社会学;名古屋大学ポスドク研究員)